

3種の触媒反応を組み合わせた

抗菌・抗ウイルス対策で室内を快適空間に。

抗菌・抗ウイルスコーティング「デルフィーノ」

抗菌・抗ウイルスコーティング「デルフィーノ」は酸化チタン・プラチナ・銀の3種の触媒反応を組み合わせた抗菌・抗ウイルス対策です。

SIAAの抗菌性能基準をクリアした安全性の高い抗菌剤で空間をまるごとコーティング。

抗菌・抗ウイルス効果により、間接的な菌・ウイルスへの触媒によるリスクを抑制し、その効果が1年間持続することを確認しました。

光触媒
酸化チタン

三元触媒
プラチナ

抗菌触媒
銀

公共施設等で多数の納入実績

病院・介護施設、消防関係、警察関係、車両関係、ホテル、オフィス、教育機関などさまざまな施設で導入しています。



株式会社 K スカイ様
関西国際空港ラウンジ・貴賓室



メディカル・ケア・サービス株式会社様
介護施設等の運営の施設



コニカミノルタプラネタリウム株式会社様
運営のプラネタリウム



株式会社 栄光様
運営の学習塾

その他の納入実績

- 日本航空 様
- 横浜市消防局 様
- JR バス関東 様
- シェーン英会話 様
- あおぞらデイサービス 様
- ザ・ペニンシュラ東京 様
- 新日本プロレス株式会社様 様
- トランスコスモス株式会社 様
- 警視庁 刑事部 科学捜査研究所 様
- ミューザ川崎シンフォニーホール 様
- コニカミノルタジャパン株式会社 様
- 二松学舎大学附属柏中学校・高等学校 様 ...etc

住宅に採用されたお客様の声



(東京都/E様)

室内に噴霧されたマイクロ粒子が部屋中に充満し、まんべんなく抗菌コーティングされている様子を見て安心しました。また接触の多い箇所を重点的にスポットコーティングしていただき、さらに安心です。



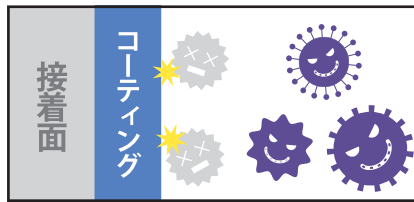
(奈良県/I様)

どこに居るか分からない菌を除菌するのではなく、施工した室内を抗菌する「まるごと抗菌」なので安心です。そのうえ防臭、防カビまでしてくれるので大変助かります。

抗菌・抗ウイルスコーティングについて



抗菌・抗ウイルスコーティング「デルフィーノ」を室内に噴霧します。ミクロの粒子が細かな隙間に入り込みお部屋をすみずみまでコーティング。さらに、よく触れるドアのレバーハンドルなどは、硬化材入りの「デルフィーノ」をスプレーでスポットコーティングします。



壁や床のコーティング面に触れることで、菌やウイルスが増殖するのを抑制。菌やウイルスとの接触リスクを抑えます。

※イラストはイメージです。細菌やウイルスの実際の形状・寸法とは異なります。



施工前後にはATP検査を実施し、清浄度の変化を確認します。目に見えない菌などの生物エネルギーを可視化※1測定することで清浄度を検査します。食品業界で採用されている検査方法です。

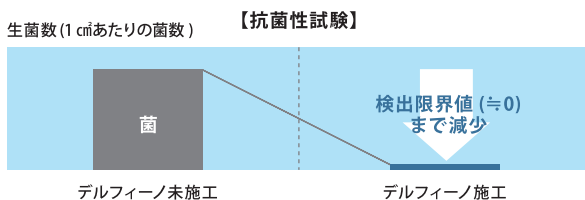
※1 全ての生物の細胞内に存在する ATP(アデノシン三リン酸)を酵素などと組み合わせで発光させ、その発光量(Relative Light Unit:RLU)を測定します。ATPが存在するという事は、生物の痕跡が存在する証拠であり菌の餌が存在する環境です。

抗菌・抗ウイルスコーティング「デルフィーノ」の特徴

1 抗菌、抗ウイルス、防臭、防カビ効果を確認

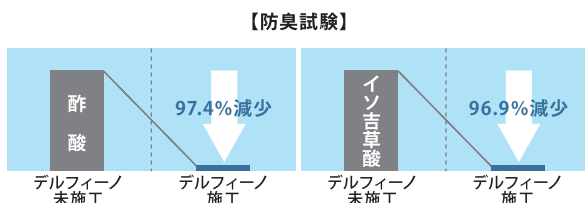
菌、ウイルス、臭い、カビに対して実証試験を実施しています。

抗菌性能



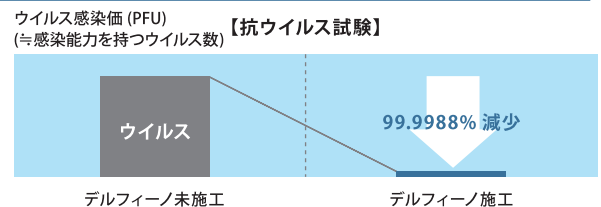
試験結果：生菌数(1cmあたりの菌数)が検出限界値(≒0)まで減少/実験室：(一財)日本食品分析センター彩都研究所/試験日：平成29年2月7日/試験内容：JIS Z 2801:2012「抗菌加工製品-抗菌性試験方法-抗菌効果」5を参考 検体にポリエチレンフィルム(4cm×4cm)を密着 検体の生菌数(/cm)の対数値の平均値/放置条件：放置温度35℃ 放置時間24時間

抗菌性能



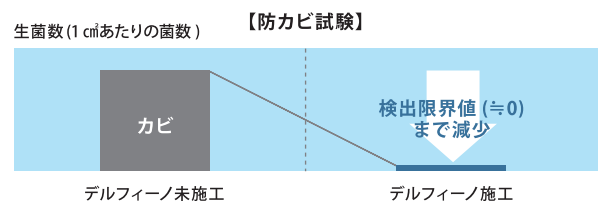
試験結果：残留ガス濃度が、酢酸は2.6%、イソ吉草酸は3.1%まで減少/実験室：(一財)日本染色検査協会/試験日：平成22年2月16日/試験内容：(一財)繊維技術評価協議会繊維製品認定基準 機器分析試験法 酢酸：検知管法(試験試料5Lにガス3Lを注入、2時間後の残留濃度を測定) イソ吉草酸：GC法(試験試料500mLを所定濃度に調整したガス成分溶液5μLを注入、2時間後の残留ガス濃度をガスクロマトグラフにて測定)/放置条件：放置温度35℃ 放置時間24時間

抗ウイルス性能



試験結果：ウイルス感染価が99.9988%減少/実験室：(一財)日本繊維製品品質技術センター神戸試験センター微生物ラボ/試験日：平成29年1月31日/試験内容：ガラス板にポリエチレンフィルム(4cm×4cm)を密着 ウイルス感染価(PFU: plaque forming units)常用対数平均値を測定/放置条件：放置温度25℃ 放置時間24時間

防カビ性能



試験結果：生菌数(1cmあたりの菌数)が検出限界値(≒0)まで減少/実験室：(一財)日本食品分析センター彩都研究所/試験日：平成29年2月7日/試験内容：JIS Z 2801:2012「抗菌加工製品-抗菌性試験方法-抗菌効果」5を参考 検体にポリエチレンフィルム(4cm×4cm)を密着検体の生菌数(/cm)の対数値の平均値/放置条件：放置温度35℃ 放置時間24時間

2 SIAA(抗菌製品技術競技会)基準をクリアした品質と安全性

「デルフィーノ」は、試験等で安全性を確認したものを使用しています。

【急性経口毒性】※1



飲み込んだ時の
有毒性なし

【皮膚への刺激性】※2



長く触れた
ところの
炎症なし

【変異原性】※3



遺伝子(DNA)
への影響なし

【皮膚感受性】※4



アレルギー
反応なし

※1. 雌ラットを用いる急性経口毒性試験(一財)日本食品分析センター第15069178001-0201号 2015年8月25日 異常及び死亡例なし ※2. ウサギを用いる皮膚一次刺激試験(一財)日本食品分析センター第15069178001-0301号 2015年8月25日 無刺激性と評価 ※3. 微生物を用いる変異原性試験(一財)日本食品分析センター第15069178001-0101号 2015年8月21日 遺伝子突然変異誘発性が陰性 ※4. モルモットを用いるMaximization法による皮膚感受性試験(一財)日本食品分析センター第15069178001-0401号 2015年9月17日 皮膚感受性は有さないと評価



※本書に収録したものは、全て当社に著作権が存在致します。無断での複製は固くお断りいたします。

